

今年度の研究について

研究主任 大谷 美奈子

研究主題「自らが主体者となって生きる児童の育成」

本校は、平成29・30年度の2年間、東京都教育委員会から人権尊重教育推進校の指定を受けました。人権教育推進校として、学校の教育活動全体を通して人権尊重の精神を培い、どの命も等しく大切にし、差別や偏見、いじめを許さない良好な人間関係を築ける自立した児童の育成を目指します。また、今後ますますグローバル化が進む社会において、思いやりや社会ルールを身に付け、自己の確かな価値観に基づいた行動ができる自立した人間として、よりよく生き抜くために必要な資質や能力の伸長を図ってまいります。

そこで、本年度の研究を「自らが主体者となって生きる児童」と定め、人権教育と道徳教育を柱に、児童自身が「何を」「何のために」「どのように学ぶか」を常に意識しながら学習活動に取り組み、その意味や価値について深く考え、実践に生かす「授業づくり」について研究を進めることにしました。

以下は、この5月に行った3年生の道徳の授業の様子です。

【道徳・3年生】 主題名「みんなが笑顔になるためには」 D-13【公正、公平】
教材名「新聞係になった、のぶ君」 (出典：『3年生のどうとく』 文溪堂)

<教材の内容>

教材「新聞係になった、のぶ君」は大きく分けて4つの構成となっています。

- (1) 新聞係になったのぶ君。リーダーのまゆちゃんは、のぶ君に絵の仕事をお願いする。
- (2) 学級新聞第1号完成。第2号でもまゆちゃんは、また絵の仕事のをぶ君をお願いする。
- (3) のぶ君は、「本当は記事を書きたい。」と自分の気持ちを伝える。
- (4) お互いに気持ちを共有して、みんなで新聞を作り上げ、みんなが笑顔になる。

<指導の工夫>

- 道徳教育の視点
 - ・ねらいに迫るための発問と学習活動の工夫。
 - ・登場人物の気持ちを共感的に捉えられる資料提示の工夫。
 - ・双方の気持ちや行き違いを可視化することで、思考を深める板書の工夫。
- 人権教育の視点
 - ・相手を尊重し合うことの大切さに気付く話し合いの工夫。

<授業の様子>

児童は、まず、登場人物の「まゆちゃん」と「のぶ君」のどちらかの立場になって、それぞれの気持ちを考え話し合います。その際、児童一人一人が自分の考えを言葉で友達に伝えることができるようにするために、表情スケールを使いました。次に、少人数で互いの考えを伝えたり聞いたりする場を設定し、どの児童も自分の考えを発表できる時間を設けました。さらに、全体で意見交換を行い、まゆちゃんとのぶ君双方の気持ちの行き違いに気付きながら思考を深めていく中で、みんなが笑顔になって過ごせるようにするにはどうしたらいいのか、普段の生活と重ねて振り返りました。

<児童の振り返り>

- ・相手の気持ちを考えるのはむずかしいけれど、少しでも相手の気持ちを考えるようにします。
- ・自分が勝手に決めつけないように、みんなでよく話し合いをします。
- ・何かを決める時は、強い人の意見だけで決まってしまうように、互いの話をよく聞きます。



<表情スケールを使って自分の考えをもつ>



<互いの意見を発表し、思考を広げ深める>